

デジタル化の取組を着実に進めるために、構想をDX計画書として文書化。デジタルツールの活用が社内に定着するよう、部門を超えたデジタルチームを組成して推進。

協和地建コンサルタント株式会社				<a href="https://kyouwacc.com/">https://kyouwacc.com/</a>	
本社所在地	松江市東津田町1326-1	資本金	2,000万円	事業概要	温泉・水源開発、地熱・地中熱活用 ・地質調査・土質試験、測量・設計 、地すべり調査・地すべり対策工事
代表者名	石倉昭和	従業員数	33名		
設立年	1960年	業種	建設コンサルタント業		

## 背景

- コミュニケーションツールや業務管理などではデジタル環境整備を進めてきた一方で、地質調査業務におけるデジタル化の取り組みが十分に進められていない。
- BIM/CIM対応やボーリング掘進時のデータ見える化等、時代の要請に合わせたデジタル化を進めることで、本業の業務革新を進め、競争上の優位性を築きたいと考えていた。
- 業務革新に繋がるツールが、コミュニケーションツールや業務管理ツールなどと連携して一体的に活用されるような環境を整備したい意向である。
- デジタルツールが若手技術者への技術継承や教育訓練に有効活用されることで、若手社員にとってやりがいのある職場にしていくことも目指している。

## 計画の骨子

### デジタルイノベーションの推進

- ▶ これまでのデジタル環境整備に続く今後の取り組みを「デジタルイノベーションの推進」と位置づけ、ステップアップを目指すこととした。

### 取組方針の策定

- ▶ BIM/CIM対応やボーリング掘進時のデータ見える化を「生産性向上」の取組と位置付けるとともに「職場環境改善」の取組施策も計画した。
- ▶ 従業員のデジタルリテラシー向上をフォローする「デジタルチーム」の組成など、デジタル化を加速させるための組織体制を計画立案した。